

## 2. 安全な診療補助業務に関する基本的知識・技術評価表

### 《注射編》

#### 1. 身体への侵襲を引き起こす薬剤の取り扱いができる知識の習得

文末が「知っている」→0⇒1：知らない 1⇒2：聞いたことがある ~~2：だいたい知っている~~ 3：知っている  
 文末が「できる」→ 0：未経験 1：できない 2：指導があればできる 3：一人で行える

A. 輸液療法に関する基本的知識がある		0ヶ月	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
1	投与する血管の名前と走行を述べる→知っている				82.8	31.0
2	輸液療法の方法の違いを薬剤の効用、治療目的で述べる→知っている				81.5	28.1
3	同一名称輸液(ソルデム・高カロリー輸液等)の組成の違いを知っている				89.1	43.5
4	通常の輸液と高カロリー輸液の組成の違いを述べる→知っている				86.4	44.2
5	注射以外の目的で注射器を使用してはいけない理由を知っている				94.6	73.5
6	胃管注入剤の静脈内投与は生命を脅かす危険がある理由を知っている				92.5	71.4
7	高カロリー輸液を末梢から点滴してはいけない理由を知っている				96.6	78.1
8	隔壁のある二層製輸液バッグの開通をしないで投与するとどのような危険がおよぶか知っている				91.7	64.8
9	薬剤の単位[mL][mg][mEq][U][IU]の量が全く違うことを理解して区別できる→知っている				89.0	56.8
10	[mL]のものを[mg]に換算できる→する方法を知っている				89.8	76.9
11	体重あたりの薬剤の用量を計算できる→する方法を知っている				57.9	26.9
B. 医師や先輩看護師からの指示を理解できる						
1	注射薬は医師の指示による指示注射ワークシートをもとに作ることを知っている					100
2	指示注射ワークシートから、用法・用量を正しく読みとれることができる					98.0
3	医師の指示を指示注射ワークシートに転記する際患者名・薬剤の転記ミスが起こりうることを知っている					96.6
4	投与する患者になぜその薬剤が輸液療法されるのか述べる→述べる→知っている				95.2	55.1
5	薬の内容や投与方法がわからないときには医師や先輩看護師に尋ねたり、医薬品集(北里大学病院・東病院薬剤部出版)などで確認することができる					95.9
C. インスリン療法に関する基本的知識を持っている						
1	インスリンの1mL中の単位数を知っている				84.1	67.6
2	インスリン製剤はバイアル、カートリッジ、ディスポーザブルなど種類があることを知っている。					80.3
3	インスリン注射は専用注射器を使用する理由を知っている				90.3	79.3
4	インスリンは単独で静脈注射できない理由を知っている				80.4	60.1
5	インスリンの種類と作用発現時間の違いについて知っている				93.9	63.3
6	インスリン投与前、食事摂取状態、絶食の有無の確認をする必要があることを知っている					87.1
7	低血糖症状・高血糖症状について知っている				99.3	78.2
8	低血糖症状や対処方法について患者に説明ができる				92.5	68.7
D. 使い方を誤ると死に至る可能性のある薬剤の基本的な知識をもっている						
以下の薬剤の薬効を知っている						
1	プレドバ(塩酸ドパミン)・昇圧剤				87.5	60.4
2	ドブボン(塩酸ドブタミン)・昇圧剤				81.8	47.6

H19年度1年後に「3」の割合  
(左隣は「3+2」の割合)